公開シンポジウム「日本語の自動詞・他動詞を考える」
2017年10月7日（土） 日本女子大学

母語話者の自動詞・他動詞の使用状況

中俣尚己 （京都教育大学）

1. この発表の目的

- 日本語話者は本当に自動詞を好んでいるのか検証する。

なぜ検証するかというと

- 「する」型言語の英語
- 「なる」型言語の日本語
- 寺村(1976)、池上(1981)

- （1）私が100万円貯めたら、世界一周旅行に出かける。
- （2）100万円貯まったら、世界一周旅行にでかける。（寺村1976)

この通説には反論がある。

- 野田(2015)
  日本語のほうが「する」言語で英語のほうが「なる」言語といったほうがいい現象が多く見つかる。
- (3) My girlfriend is blue-eyed.
- (4) 彼女は澄んだ目をしている。（影山1990)
- (5) kare wa atama wo tsuyoku utta. (Pardeshi 2002)

「好む」の問題

- 先行研究では「なる」言語派も反対派も、興味深い例文を提示しているだけ。
- 「好んで」いるかどうかについて決着をつけるには、コーパスから頻度を見ることが必要。

2. この発表の前提

- 補助動詞として使われうる動詞を除く。
- 例えば「いる」は「ている」が、「みる」は「てみる」が多く、当然自他の問題は無縁。
- そのうえで、有対自他動詞のみを議論の対象にする。

参考：BCCWJで多い動詞

- BCCWJ　短単位語彙表より

為る	2563860
居る	1121183
有る	956900
言う	803148
成る	564043
来る	238115
思う	229081
見る	223222
行く	220816
出来る	209481

参考：補助動詞として使われるものを削除すると

- BCCWJ　短単位語彙表より

言う	803148
思う	229081
因る	169135
つく	114674
考える	98935
持つ	92668
分かる	88041
於く	84355
出る	80695
行う	79779

参考：有対自他動詞に絞ると

- BCCWJ　短単位語彙表より

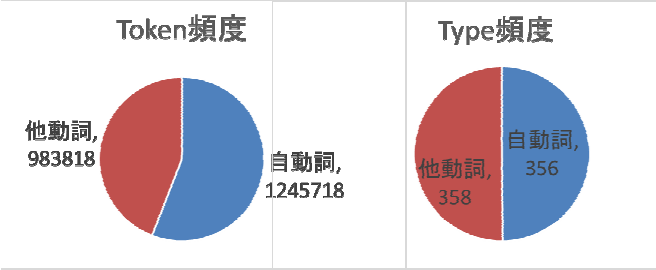
持つ	92668
出る	80695
取る	79554
聞く	67600
知る	64503
入る	58543
受ける	42645
知れる	39167
入れる	38409
見える	35615

3. 書き言葉コーパスから見る 母語話者の自動詞・他動詞の使用状況

使用したデータ

- 『現代日本語自他対一覧表』
  自他動詞対548対、1096語を利用
- **『現代日本語書き言葉均衡コーパス』語彙表**
  （短単位語彙表データ）

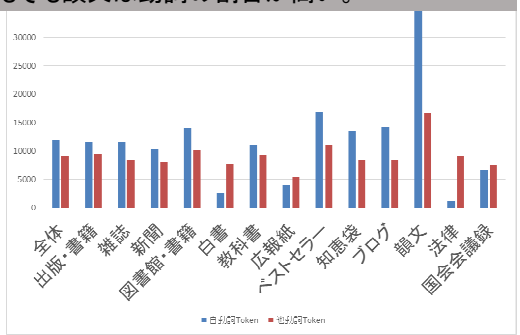
Q1　BCCWJ全体では自動詞・他動詞どちらが多い？



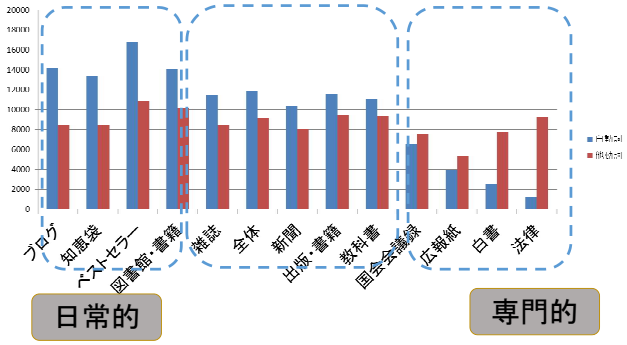
自動詞の方が使用はやや多いが、「なる型」とまでは言えないのではないか。

Q2　レジスターによって違いはあるか？

韻文では自動詞は他動詞の2.1倍出現するが、そもそも韻文は動詞の割合が高い。

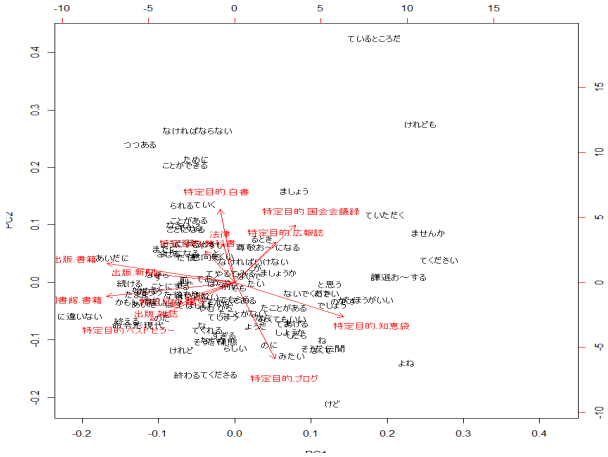


韻文を除外し、並び替えを行った。

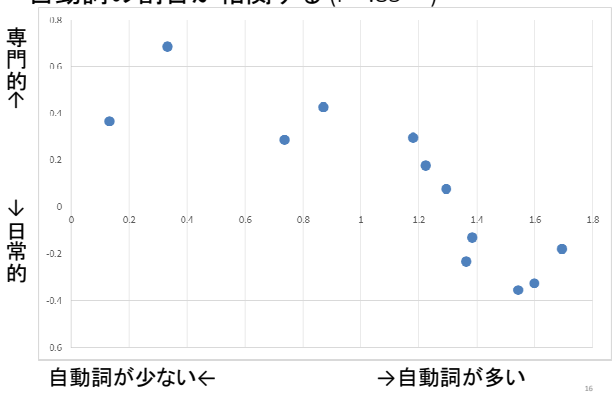


別の研究だが……

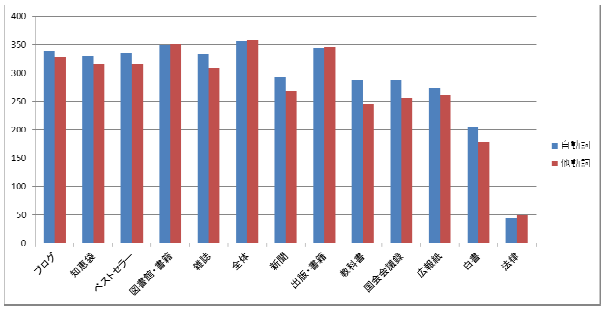
- 中俣(2017)
- 初級文法項目（接続助詞と文末形式）がどのレジスターによく出現するか、というデータを元に、主成分分析という手法で13レジスターの関係を見た研究。
- 主に2つの軸を使って13レジスターを位置付ける。



中俣(2017)の第二主成分と自動詞の割合が相関する (r=-.85**)



TYPE頻度にはレジスター間の差はない。



書き言葉の調査：まとめ

- 日本語の自動詞の使用率はレジスターによって異なる。
- 日本語には「専門―日常」で表現するのがふさわしい文体的な対立が存在する。
- 日常的な文体では自動詞が多用され、「自動詞優位」と言える。専門性が高い文体では、他動詞が多用され、「他動詞優位」と言える。

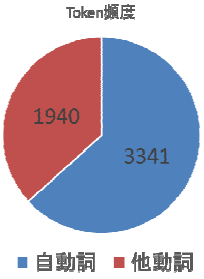
4. 話し言葉コーパスから見る
母語話者の自動詞・他動詞の使用状況

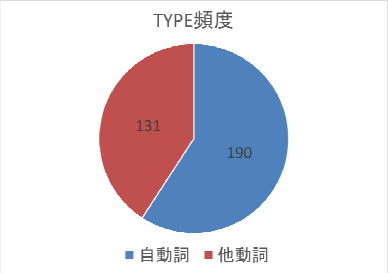
- 仮説：
「日常ー専門」の対立で、自動詞の使用率が変化するのだとしたら、日常会話では自動詞の使用率が高くなるはずである。

方法

- 『名大会話コーパス』のテキストファイルのうち、一部（25,000行、219,337語)をweb茶まめにて形態素解析。
- 後は書き言葉と同様に、『現代日本語自他対一覧表』に存在するものだけを抜き出す。

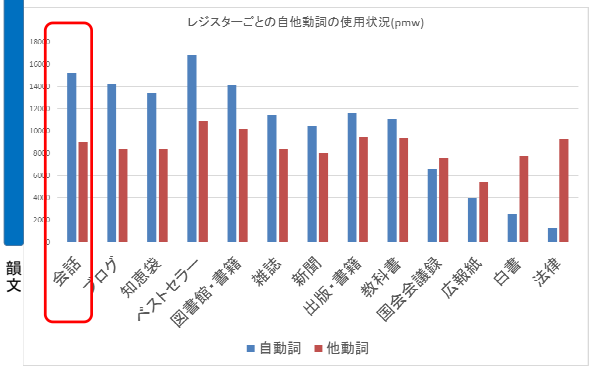
Q3　会話では自動詞が多いか？





会話では、使用頻度だけでなく、種類の上でも自動詞が優位であると言えそう。

書き言葉のデータと比較



レジスターのデータから導かれること

- 日本語本来の傾向としては、自動詞優位の「なる型」言語であると言えそうである。
- 専門的な内容を記述するために他動詞優位の文体が、後発的に生み出されたのではないか。
- 史的研究も必要。
- 自他動詞を考える上で、レジスターは極めて重要なファクター。動詞の自他は文体の一部を為すと言ってもよい。

5.　個々の動詞を見る

- よく使う自動詞にはどんなものがあるか？
- 『現代日本語自他対一覧表』の中で頻度5,000以上のものをピックアップ
- 対となる他動詞が古語など稀なものを除く。
対応する他動詞も1,000以上あるものをリスト。

自動詞が圧倒的に多いもの（差＞5,000）

- 立つ—立てる、続く—続ける、入る—入れる
  変わる—変える、戻る—戻る、乗る—乗せる
  離れる—離す、乗る—乗せる、死ぬ—殺す
  生まれる—生む、生きる—生かす、
  増える—増やす

自動詞が多いもの（差＜5,000）

- 進む—進める、近づく—近づける、届く—届ける
  並ぶ—並べる、つながる—つなぐ、
  あたる—あてる、始まる—始める、
  広がる—広げる、起きる—起こす、
  通る—通す、残る—残す、流れる—流す、
  消える—消す、動く—動かす、飛ぶ—飛ばす、
  起きる—起こす、落ちる—落とす

他動詞が多いもの

- つく—つける、上がる—上げる、
  集まる—集める、決まる—決める
- 他動詞が圧倒的に多いもの
  知れる—知る、見える—見る、
  聞こえる—聞く

- 初級での自動詞・他動詞導入における定番語彙にズレがあるのではないか。

自動詞の頻度
5,000未満

開く—開ける
止まる—止める
割れる—割る
かかる—かける
閉まる—閉める
切れる—切る
回る—回す
壊れる—壊す

自動詞の頻度＞
5,000以上

出る—出す
落ちる—落とす
つく—つける
消える—消す
起きる—起こす
入る—入れる
乗る—乗せる

名大会話コーパスで検証
（中納言を利用）

- 消える　19
  閉まる　31
  壊れる 45
  開く　81
  切れる　82

止まる109
起きる132
落ちる142
回る　144
つく425
乗る　555
出る 1,742

名大会話コーパスで検証
（中納言を利用）

- 消える　19
  閉まる　31
  壊れる 45
  開く　81
  切れる　82

止まる
起きる
落ちる
回る
つく425
乗る　555
出る 1,

ほとんどが「店が閉まっている」という文脈。窓・扉などの例は8例。

大半が他動詞「ひらく」。自動詞の例も「穴が開く」という文脈が多く、窓・扉などの例は5例。

名大会話コーパスで検証
（中納言を利用）

- 消える　19
- 閉まる　31
- 壊れる 45
- 開く　81
- 切れる　82

止まる109
起きる132
落ちる142
回る　144
つく425
乗る　555
出る 1,

データや情報が消える、という文脈。電気は消えない。

「電気がつく」という例も一定数見られる。

学習者の会話では……

- 日中Skype会話コーパスでは、「消える―消す」「壊れる―壊す」の対は両方とも出現。
- 「開く」「閉まる」は出現しない。「開ける」「閉める」という他動詞のみ。
- KYコーパスには「開く」「閉まる」が出現するが、これは「泥棒に入られた後」というロールプレイの中でのみ。

個々の動詞を見てわかること

- 自動詞・他動詞＝とりあえずドアと窓という発想は見直しても良いのではないか。
- 他にもよく使う自動詞・他動詞はある。
- 「開く」「閉まる」がないと困る文脈は少ないのではないか。「データが消える」「データを消す」などはかなり意味あいが違う。

•発表は以上です。

使用したデータ

- 鎌田修・山内博之(2000)「KYコーパス」
- 国立国語研究所(2013)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表」(http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/freq-list.html)
- 中俣尚己(2015)『日中Skype会話コーパス』(http://nakamata.info/database.html)
- ハイコ・ナロック，プラシャント・パルデシ，影山 太郎，赤瀬川 史朗（2015）『現代語自他対一覧表 Excel版』（http://watp.ninjal.ac.jp/resources/)
- 藤村逸子・大曽美恵子・大島ディヴィッド義和、2011「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子、滝沢直宏編『言語研究の技法：データの収集と分析』p. 43-72、ひつじ書房
（中納言から名大会話コーパスを検索）

参考文献

- 池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店
- 影山太郎(1990)「日本語と英語の語彙の対照」玉村文郎(編)『講座日本語と日本語教育7』明治書院
- 寺村秀夫(1976)「「ナル」表現と「スル」表現」『日本語と日本語教育―文字・表現編―』pp.49-68,印刷局
- 中俣尚己(2017)「多変量解析を利用した日本語初級文法項目の出現レジスターの分析」『計量国語学会第61回大会　発表予稿集』
- 野田尚史(2015)「世界の言語研究に貢献できる日本語文法研究とその可能性」益岡隆志(編)『日本語研究とその可能性』pp.106-132, 開拓社
- Pardeshi, Prashant (2002) '"Responsible" Japanese vs. "Intentional" Indic'『世界の日本語教育12, pp.123-144